

教会の行事にモルモン教徒をどう歓迎すべか？

Copyright ©2013 Mormon Outreach Ministries, Sydney

一般に「モルモン」と呼ばれる「末日聖徒イエス・キリスト教会」の会員が、聖書研究会、ESL（第二外国語としての英語）コース、教会関係のプレイグループ等に参加してもよいというとき、あなたには基本的なモルモン教義を熟知する時間はほとんどないかもしれません。モルモン教は、最も複雑な信仰体系と独特の「文化」を持つ宗教です。どうしたらよいのでしょうか。

下記の七つのポイントを覚えておいてください。

I モルモン教会員の友人のモルモン教会への参与度

友人は「神殿会員」（モルモン神殿に参入するのに「ふさわしい」モルモン教徒）でしょうか、又は文化にモルモン教徒でしょうか。折を見て次のような質問をしてください。「どうして末日聖徒イエス・キリスト教会に入会しましたか」「何時間ぐらい、モルモン教会のために働いていますか」モルモン教は「厳しい宗教」です。モルモン教徒は日曜日に（原則として、聖餐会、日曜学校、神権会、扶助協会、初等協会）の合計3時間モルモン教の集会所で過ごすこと、毎週月曜日の夜にすべての家族が「家庭の夕べ」（FHE）を開くこと、家系調査、神殿奉仕などが期待されています。「神殿会員」の場合、モルモン教会員に福音を述べ伝えることは非常に難しいです。「神殿会員」のモルモン教徒がクリスチャンとの聖書研究会を希望する場合その動機に警戒してください。

「神殿会員」を1対1の聖書の研究会や英語のクラスに招待して下さい。なによりも、聖書研究会、英語のクラスや教会員がモルモン教徒にならないようにしてください。

II モルモン教の思考態度

①被害妄想とモルモン文化の「閉鎖性」。モルモン教会や教会指導者を攻撃してはいけません。モルモン教会員は、初期のモルモン教徒が迫害されたのは彼らが義の人で「神の選民」であったからで、ジョセフ・スミスは「殉教者」であったと教えられています。もしジョセフ・スミスを攻撃したり、一夫多妻制やホロコーストの犠牲者のための死者のバプテスマといった敏感な問題や、モルモン教会について否定的なことを持ち出すと、モルモン教徒の心が固くなる可能性が充分にあります。末日聖徒イエス・キリスト教会へのコミットメントが有名無実であってもです。防御的な立場にある人々は明瞭に考えることはできないので福音に耳を傾けません。

②客観的な事実よりも主観的な感情が、モルモン教徒にとって最も重要である。モルモン教会はモルモン教福音の真実性を「胸を内から燃やす」ことで確証させると教えています。この暖かい、良い気持ちは霊的真理を決定する究極の方法であるとされています。したがって、人間の論証で彼らの主張の虚偽を認めるように説得することは、滅多にありません。神のみ言葉だけがわたしたちの心の深奥まで刺し通して、「心の思いと志とを見分けることができる」のです¹。（ヘブル人への手紙 4:12—口語訳）（「霊的真理をどのように判断すべきか？」を参照。）

III モルモン教会はモルモン教理の表明を和らげてきている²

モルモン教会は、地球上でモルモン教会が「唯一まことの」神の教会だと主張しており、モルモン教会は、わたしたちが天で最高の栄光を達成することを可能にする完全な真理を持っているが「他の教会」は、「真理の一部」しか持ってないと主張しています。

しかし、広報を意識してモルモン教会は下記の教義を和らげてきています。

- すべてのキリスト教派は間違っていて、彼らの信条はことごとく神の目に忌まわしいものである³といったジョセフ・スミスの強硬路線。
- 「神々となる」という教え⁴。

しかしモルモン教会は、ジョセフ・スミスがキリスト教の教会について教えたことや、神々となるという教えを、削除、変更もしていません。こういった教えは、いまだにモルモンの聖典や教会の公式な学習テキストに入っています。

IV モルモン教の用語

モルモン教会は聖書の専門用語、（たとえば「贖い（あがない）」「贖罪」「福音」「永遠のいのち」「ゆるし」「救い」）を再定義しています。モルモン教徒が聖書の専門用語を使うときは、その明確な定義を

主張しましょう。モルモン教徒は、「イエス様は、私の『救世主』です」とか「私たちは恵みだけによって救われた」と言うでしょう。どういう意味でしょう。モルモン教理の「恵みのみよる救い」とは普遍的な救いを意味しています。モルモン教義の救いは二種類あります。① 条件なしまたは普遍的な救いとは、単に死後、肉体の復活にあずかることです。キリストが人間の罪を贖ったことで万人に与えられる「恵みのみよる救い」ということになっています。② 条件つきまたは個人的な救いとはモルモン教の「福音」の「律法遵守」、義務服従によって獲得すべきものだそうです⁵。モルモン教の恵みとは「信仰を實踐し、悔い改め、全力を尽くして戒めを守る人に神から授けられる力」ということです⁶。（“Terminological Differences between Mormonism and the Bible” 参照）

V 証しをする

あなたの生ける信仰と復活されたイエスとの出会いがどのようにあなたの人生を変えてきたことを示すべきです。敬虔のための闘いや弱点をモルモン教徒と分かち合ってください。モルモン教徒はこういったことに経験がありません。モルモン教会は、一あらゆる方法で完璧になること—という重い荷をくくって、メンバーの肩に載せています。また、モルモン教徒にとって赦しを得ることは長々と続くプロセスです。日曜日ごとに、モルモン教会員が「（モルモン教の）福音の原則に従って生活することで祝福がもたらされた」と証するのを聞きます。誠実なモルモン教徒は傷ついていて罪の意識に苛まれているかもしれませんし、また誰もが自分の弱さや失敗を分かち合わないようと思われるので、自分たちだけが失敗していると感じているようです。

あなたは持っていますが、モルモンの友人が持っていないもの一罪が赦されていること（1ヨハネ 1:5-10）と、永遠の生命を現在持っていること（ヨハネによる福音書 6：47、1ヨハネ 5:12）—をモルモンの友人に知ってもらいましょう。適切であれば、誰ひとりとしてモルモン教会について否定的なコメントで裁くことのないクリスチャンの礼拝にモルモン教会員を招待しましょう。モルモン教徒はクリスチャンの教会礼拝はイエス・キリストが中心で、どのように聖書が忠実に教えられているかを経験する必要があります。

VI 焦点：「イエスは誰でしょうか」

「なぜイエスは人となってこられたのでしょうか」

「どうしたら神と和解ができるのでしょうか」

モルモン教の教理をごく簡単に述べてみます。

- モルモン教の天の御父は（かつては私たち人間のようでしたが、生と死を経験し）昇栄して神となったそうで、また肉体を持っていることになっています。
- モルモン教でのイエスは天の父の最初の霊子です。
- モルモン教では十字架上のキリストの働きは不完全であったことになっています。究極の救い（「昇栄」*）は、さまざまなモルモン教の律法を守り、義務を果たすことによって得られるものだそうです。
（*「昇栄」とは「日の栄えの王国」で最高の階級を受継ぎ神々として永遠に住むことを意味します。）

次の聖句と一緒に読むことをお勧めします。

- ルカの福音書 18:9-14 といった聖句を文脈も一緒に押さえてモルモンの友人と読んでください。モルモン教徒の多くはこのパリサイ人のように義人だと自任しているかもしれませんし、神の前に誇り高い人かもしれません。モルモン教徒はまた、ルカによる福音書 18：18-23 でイエスのもとにきた大変な金持ちの役人のようでしょう。モルモン教徒は十分に（モルモン教会の律法を守り、義務を果たすことを）していると思っているかもしれませんが、さらに多くのことをしなければならぬと漠然とした感覚を持っています。
- ヨハネの第一の手紙 1:5-10（特に7節と9節）を文脈も含めてモルモンの友人と読んでください。誠実なモルモン教会員は許しを得ることで闘いをします。ヨハネ第一の手紙 1:9 は「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめてくださる」（口語訳）と述べています。しかし、モルモン教理では神の許しを行いによって得なければならないとを教えています⁷。以下の聖句はモルモン教会の主張に異議を唱えています。ヘブル 10:17,18、詩篇 32:1,2、エペソ人への手紙 1:7、ミカ書 7：19、詩篇 103:11,12。
- エペソ人への手紙 2:8-9 を読むときには、10節も含めてください。モルモン教徒は、しばしば福音派のクリスチャンは、良いわざに励むことを気にかけないと思っています。（テトスへの手紙 3：8 参照。）

VII 証は祈りによって守られる

我々が完全に大胆にかつ妨害なしでモルモン教徒に福音を宣べ伝えることを祈りましょう。モルモン教の人のためにも祈ってください。ノンクリスチャンへの伝道のツールとして、祈りを使用しないでください。過去には、筆者はモルモン宣教師と祈りましたが、モルモン宣教師が祈ったとき私は、「アーメン」は言い

ませんでした。しかし、我々の祈りが心からのものでなければならぬと理解したとき、私はモルモン教徒と祈るのを止めました。モルモン教徒になぜ彼らと祈ることができないかについて説明しました。①天の御父と、②イエス、③神との和解を得る方法について（聖書とは）意見を異にしているからです。聖書とモルモン教理には広大な違いがあることを強調して、モルモン教徒と聖書を信じるキリスト教徒の間の交わりはありえないことを説明しました。

結論：福音派クリスチャンがモルモン教徒を「ノンクリスチャン」と呼ぶ理由を多くのモルモン教徒は理解できません。誠実なモルモン教徒は罪の赦しのことで悩んでいるように見えますし、また、罪の赦しのメッセージを知りません。おそらく、私たちの罪のために死に、三日目によみがえられたイエス様を個人的に知らないでしょう。なぜなら①モルモン教徒にとって主観的な感情が霊的真理を決定するに最も重要なことであり、②モルモンの教義に照らして聖書を読み、③聖書はモルモン正典のなかで最も信頼性がないと教えられているからです。文脈も含めてモルモン教徒と一緒に聖書を読み、神の剣、神の言葉が彼らの心を貫くと期待しましょう。

NOTES

- 1 David Peterson, *Hebrews in "New Bible Commentary"* (Leicester, IVP, 1994) p.156
- 2 二番目の公式モルモンのウェブサイト ([www. http://www.mormon.jp/](http://www.mormon.jp/)) はモルモン教会外部の人のためで、モルモン教義の表明を和らげています。。
- 3 『ジョセフ・スミス-歴史』 1:18-19、「高価な真珠」（公式正典）の一部
- 4 『福音の原則』 2009年、279頁 —モルモン教会の公式な学習テキスト
- 5 ジョセフ・フィールディング・スミス選、*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, vol.1 [1976年] 133-134頁—ジョセフ・フィールディング・スミスはモルモン教会の第10代目の大管長。
- 6 『聖句ガイド』 「モルモン書、教義と聖約、高価な真珠、合本」の一部（東京、末日聖徒イエス・キリスト教会、1995年）254頁、ニーファイ第二 25:23 参照
- 7 モルモン教理では、許しは適切な方法で悔い改め、二度と依然の罪を犯すことなく、神の戒めを完全に守ることで得られるということになっています。（『教義と聖約』 1:32, 82:7 『福音の原則』 2009年, 第19章）